

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年4月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102500
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ西陵
所在地	鹿児島県鹿児島市西陵五丁目12番4号 (電話) 099-282-2497
自己評価作成日	平成27年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者を人生の先輩として尊敬し、また、時には家族のように接し、利用者が安心して、穏やかに生活が送れるように支援を行っている。また、利用者中心のケアに力をいれ、利用者の「できること」を伸ばし、一緒に家事参加やレクリエーションなどを行うことにより、利用者の「できること」を一つでも多く見つけていくことに力を入れている。

地域との交流にも力を入れており、運動会や文化祭見学、子供みこしやおはら祭りではホームの前で止まっていたき、踊っていただいたりと、地域の方々にもいろいろなご協力をいただいている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成27年3月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は、隣接の老人保健施設やグループホームとの交流も盛んで、災害時の協力体制ができています。

・小・中学校や銀行・郵便局・スーパーマーケット・公園・バス停などがあり、リビングの広い窓から子どもたちの登下校の様子や車や人の往来を眺められ地域住民と触れ合いながら生活できる環境にある。

・町内会に加入し、近くの学校の運動会や文化祭などにも積極的に参加する一方、ボランティアのピアノやフルート演奏など、地域の人々の訪問も多い。

・利用者個人をよく把握し、詩吟や新聞の書き写し・生け花・パズル・トランプなど、趣味や生き甲斐のある日々を過ごせるように工夫している。

・管理者は職員を育てることに力を入れ、各種研修への出席を奨励している。職員はケア対応等の更なる向上に意欲的である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に理念の唱和を行い確認を行っている。また、「家族の絆を地域の中で支えていきます」との文言があり、全職員が利用者と地域の繋がりを念頭に置いています。	地域との関連性を重視した理念は事業所内に掲示し、パンフレット類に掲載している。朝礼時に唱和し、会議などの機会に確認し、日々のケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会への参加しており、運動会などの学校や地域の夏祭り、おはら祭り踊り連の見学などの行事に積極的に参加している。ピアノ演奏会や踊りなどボランティアの受け入れにより地域の方々が多く来訪される。	町内会に加入し、小中学校の運動会や校区の夏祭りなど地域の行事に積極的に参加している。中学生・高校生の職場体験学習のほか、ボランティアの受け入れでピアノ演奏や踊りなども行っている。家族の知り合いの見学者がきたり日常的に地域の方々とは交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議へ民生委員や町内会長などの方々に参加していただき、認知症についての勉強会などを実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現在の状況や、行事内容、サービスについての報告や評価への取り組み、その結果を報告し、色々な意見をいただき、サービスの向上につなげている。	会議は定期的開催している。事業所の状況や行事・サービスの実際、空き状況・外部評価の報告が行われ、出会者から理解と協力が得られると共にそこでの意見をサービス改善に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	長寿安心相談センター職員の方々に運営推進会議に参加していただき、事業所の実績を伝えている。また、入居希望者の紹介等で協力関係を築いている。	市の担当者とは窓口で定期的に状況報告を行いアドバイスを貰っている。長寿安心相談センターの担当者とは運営推進会議を通して協力関係ができ、情報を交換している。介護相談員の受け入れも行き、市主催の研修会にも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月の身体拘束委員会や身体拘束についての研修を通して身体拘束を行わないケアを実践している。	身体拘束委員会を中心に毎月ミーティングの中で勉強会を実施し、事例検討会などで職員の共通の認識を図って、拘束をしないケアを実践している。日中の玄関は施錠せずに職員間の連携で安全な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の虐待防止委員会や研修を通して虐待にあたる行為やその弊害について全職員理解しており、虐待ゼロのケアを実践している。また、ご家族へも情報提供を行い、利用者が穏やかに暮らせる環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>制度の利用は行っていないが権利擁護についての研修を行い、必要に応じて制度の活用を支援していきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結、解約時の際は十分な説明を行い、理解、納得された上で契約の締結、解約、改定などを行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関へ意見箱を設置し、意見や要望をいただく体制と家族の面会時に要望がないかの声掛けを行っている。年1回家族会を開き意見を聞く機会を設けている。また、相談を受けた際は速やかな解決に心掛けている。</p>	<p>利用者からは日々の関わりの中で何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。家族からは面会や忘年会などを兼ねた家族会や電話・運営推進会議等で必ず声かけを行って意見等を聞いている。食事の形態の希望や入退院後の相談等、出された意見・要望は運営に反映させている。意見箱も設置してある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月ミーティングを行い、意見交換の場を設けている。また、職員が意見を述べやすい環境に心掛けている。また、毎月の管理者会議により代表者への意見や提案を報告する機会も設けている。</p>	<p>職員は毎年それぞれの係を決めていろいろな取り組みを行っている。管理者は申し送りや毎月のミーティング時に、職員の意見や提案を聞く機会を設け、管理者会議に代表者に報告する機会も設けられており、職員の意見が運営に反映されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>研修などに参加した職員には賞与査定や昇格、資格手当等あり職員が向上心を持って働ける環境・条件の整備ができた。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修案内や法人内研修を実施し研修を受ける機会の確保を行っている。また、研修の費用負担を行い、向上心を持って働けるように努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH連絡協議会があり、認知症に関する講習会などに参加し交流を行っている。また、法人内研修や相互訪問を実施し交流を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に本人へ面談を行い本人の要望等を聞く機会を設けている。入居時も本人へ寄り添い他利用者との交流等の橋渡しを行い、安心して過ごせる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前、入居時共にご家族の不安や要望等を傾聴し関係づくりに努めている。ご家族とご本人の要望等をすり合わせながら、利用者にとってより良い暮らしを共に話し合い、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が施設利用を考えたいきさつ困っていることをじっくり伺い、他のサービスの利用を含めた対応に心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見極め家事参加やレクリエーションを積極的に行うことにより、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外食や外泊、病院受診の機会を設けていただき、本人と家族の絆を大切にしながら、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御面会される方は、ご家族以外の方でも自由に受け入れ、なじみの人とふれあえるよう支援している。	友人知人の訪問があり、一緒にお茶を飲んだり継続的關係が途切れないよう働きかけている。家族の協力を得て馴染みの理美容院の利用や外食・墓参などに出かけている。手紙を出したり電話をかけたなど、馴染みの關係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事参加などを通して利用者同士の交流の橋渡しを行い一人一人が孤立せずに共に支えあえるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には困った時にはいつでも相談に乗りますと声をかけ、相談の折にはいつでも対処する用意がある。また、退居先の施設への情報提供なども求めに応じて実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望や意向を職員、ご家族と話し合い実現に向けたケアを支援している。また、希望や、要望を伝えられない方には本人本位になるように検討を行っている。	日々の生活の中で、詩吟を楽しんだり掃除をしたり、会話の中から暮らし方の希望を聞き、表情や言葉などからも思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族や馴染みの友人知人からも情報を得て、職員で共有し、本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族の方々、前サービス事業所などより情報をいただきながら、これまでの暮らしの馴染みの物など取り入れた支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝体温、血圧測定、様子観察を行い心身状態の把握を行っている。また、毎月のカンファレンスにて意見交換し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、御家族の希望を伺った上で、全職員でモニタリングを行い、心身の状態を考慮し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の意向を汲み取った上で、主治医の意見も取り入れ担当者会議で話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケアプランの実施記録を毎日記録し、各職員が目を通し情報の共有を行っている。それらをふまえたケアの中から見直すべき事項がモニタリングされ介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理容、フットケア、マッサージ、歯科往診の活用など、ご本人とご家族に希望を伺い対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時の介護タクシーの紹介などご家族と利用者のニーズにそった生活への支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にかかりつけ医を決めている。また、かかりつけ医より専門の医療機関を紹介していただき適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。緊急時の対応など、かかりつけ医と連携を取りながら適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	母体である田上記念病院の看護師や医師へ相談し助言をいただいている。また緊急時には夜間帯でも医師とのホットラインで連携がとれている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院先の医師、看護師、ソーシャルワーカーなどより状況を伺い、認知症の方の環境の変化への影響を考慮し、可能であれば早期退院が叶うよう、退院後の連携を含め話し合っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	心身面の重度化により医療管理が必要となる予測がたてばご家族の意向を伺い、一緒に医師と今後の方向性について相談している。終末期には、ご本人が最後をどのように向かえたいかを最も大切に考え、ご家族、医師と連携をはかっている。	利用開始時に本人・家族と話をし同意を得ている。状況変化に伴い本人や家族の意向を確認し、主治医と連携して家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。重度化した場合や終末期について本人や家族・主治医とも話し合いを行い、支援に取り組んでいる。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	応急手当や初期対応について年一回勉強会を行うと共に、普段よりスタッフ間でも話題にして心構えを持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>日中、夜間を想定した火災避難訓練、地震時を想定した避難訓練を実施し、消防署の方にも立ち会っていただき、まわりの施設とも連携を取っている。</p>	<p>年2回昼夜間想定で火災・地震の避難訓練を行い、周りの施設や地域住民も参加しての協力体制ができている。スプリンクラーや緊急通報装置が設置され、災害時の水やカップ麺・オムツ等も備蓄されている。利用者個別のファイリングを持ち出せるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を人生の先輩として尊敬し、誇りやプライバシーを損ねることのないよう個別的な対応を行っている。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを重視したケアや言葉かけに努めている。勉強会やミーティングを行い、トイレ等の誘導にされげない配慮を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を気軽に伝えることができる関係性を作っている。また、利用者の思いをよく聞き、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、入浴、散歩、レクレーション、家事参加、就寝時間などいろいろな場面で利用者の希望にそった支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整髪、髭剃り、散髪、衣服の選択などご本人の思いがかなうよう個別的な支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、味見などの家事参加や台拭き、お盆拭き、食事の配膳などひとり一人の好みや力を活かした支援を行っている。	利用者の食事の好みを聞き嗜好に配慮した献立を提供したり、食材の形態を工夫している。利用者の力量に応じて料理の味見や準備・配膳・下膳・片づけ等、職員と一緒にやっている。誕生会や季節の行事食・外食にも出かけて、食事を楽しむことができるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量について記入することで、健康状態の把握が出来るようにしている。その方の状態や力に応じて食事形態を変えるなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。また、一人ひとりの力や状態に応じて声掛けや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、職員同士が連携することでトイレにて排泄していただくようにしている。本人の希望時や排泄したいよう様子があればすぐに排泄介助を行っている。	排泄チェック表で、パターンや習慣を把握し、自尊心に配慮しながらトイレでの排泄を大切に、トイレ誘導を行ったり、排泄介助をしている。繊維質の多い食事を工夫し、自然排便と排泄の自立に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動、緩下剤の使用など個々に応じた働きかけを行っている。また、野菜を多く取り入れた食事の提供を実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴を好きな方が多くゆったりと湯船につかられている。また、希望に応じ、柔軟に対応を行っている。	入浴はみょうばん温泉で、基本的に週3回である。利用者の体調や希望に添った入浴ができるように対応している。温泉にのんびり入り、利用者同士一緒に入ったり、好みのシャンプー・リンスを使用している。個々に応じて入浴を楽しめるように支援している。入浴を嫌がる利用者には職員が声かけや人を変えて工夫し職員間で連携し、状況改善に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子に応じて休息の声かけや介助を実施している。また、昼間の運動や、日向ぼっこなどを行い夜間の睡眠確保につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員で薬の準備や服薬介助を行うこと、薬の変更時は薬情報を全職員が確認することにより薬の目的や副作用、用法や用量について理解するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体のレクリエーションだけではなく、家事参加や読書などひとり一人の生活歴や力にあった個別レクリエーションの支援を実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の希望にそった外出は難しく出来ていないが、買い物などへの外出や季節に応じて外出活動を行っている。家族への外出のお願いや近所の公園への散歩なども心掛けている。	気候の状況を見合せて、外出機会が少なくなっている。計画を立てて外出レクリエーションとして水族館や弁当持参で花見・ソーメン流し・初詣、地域行事として夏祭りや文化祭などに出かけている。家族の協力で理美容院や外食・墓参にも出かけている。	外出支援について、日常的な取組みについての工夫が望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を御自分で管理されている方は買い物時等に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも電話をかけ、依頼があれば手紙も出されている。また暑中お見舞いや、年賀状など季節ごとにハガキを出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって玄関、廊下などに花や飾り付けを行っている。ホールに温・湿度計を設置し適温・適湿の管理を実施し、光が強い時はカーテンを閉めたりと環境整備に努めている。トイレなど汚染がある場合随時掃除を行っている。	共用空間は広く、道路に面して全面ガラス張りの円形の大きな窓がある。加湿器や温・湿度計もあり、換気や採光に配慮し清潔である。ゆったりした椅子で過ごせるような工夫がされ、季節の花や飾り付け、利用者の写真や作品も掲示され、居心地良く暮らしができるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ピアノや畳スペース、テレビ前にはソファがあり、利用者はそれぞれテレビを見たり、談話されたりと、思い思いに過ごされている。また、利用者同士で居室の訪問を行い交流されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、ご本人や御家族と相談しながら馴染みのある小物やソファを持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室はベッドやタンス・洗面台が備え付けである。本人や家族と相談しながらラジオやテレビ・テーブルセット・家族の写真・ぬいぐるみ等、馴染みの物などを持ち込んで、居心地よく過ごせるような居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段、トイレなどの手すりを設置し安全に生活が送れるように工夫している。各居室の入り口やトイレ、浴室に大きく名前を張り出し分かりやすくしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない